

付録 1. 先行研究の比較結果

No	手法名	手法の概要	重大欠陥の種類の利用可能性	評価						
				準備 3: 容易 2: 困難 1: 困難	特別な知識 やスキル 3: 不要 2: 必要 1: 必要	予測できる 重大欠陥の 信頼性 3: 高 2: 中 1: 低	プロジェクトの 特性を 反映できる か 3: 可能 2: 可能 1: 不可能	実施 3: 容易 2: 困難 1: 困難	結果分析 3: 容易 2: 困難 1: 困難	総合 評価
[1]	D2B0Cs法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レビューアが、成果物作成時の作成者の置かれた状況と作成された成果物の特徴から、どの認知バイアスに掛かっているかを推測し、混入した欠陥の傾向を特定することで、重大欠陥または検出難易度の高い欠陥を効率的に検出する手法</li> <li>・定義された193の認知バイアスから、研究者の知見により絞り込みを実施、更に「発生頻度」「重大欠陥誘発度」で追加絞り込みを行い、13種の認知バイアスを選定。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重大欠陥や検出難易度の高い欠陥にフォーカスしており、C表で具体的な重大欠陥種類を導き出していることから、予測に活用しやすい。</li> </ul>	3	3	3	3	2	2	16
[2]	検出難易度の高い欠陥を検出するレビュー観点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レビューやテストで取り除けなかった検出難易度の高い欠陥をボトムアップで収集し、その特徴や傾向分析からレビュー観点として持つべき内容を洗い出したもの</li> <li>・要件定義と外部仕様に着目して分析</li> <li>・「抜け漏れ」はソフトウェアトレーサビリティなどで対処するものとし、「認識の齟齬」に関する観点を以下3点抽出。それらを具体化した観点を示す。 ①ビジネス目的との整合性 ②暗黙の前提/制約 ③解決策から生み出される新たな問題の混入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レビュー観点は示されているが、重大欠陥を端的に示しているものではなく、重大欠陥に繋がりが得る質問項目を示しているに過ぎないため、重大欠陥種類の予測には直接活用ができない。</li> </ul>	3	3	1	2	2	2	13
[3]	重大欠陥を効率よく検出するレビュー手法の提案と有効性の実験報告	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重大欠陥を取り残す主な原因3点に焦点を当てた解決策のアプローチ法の提案。</li> <li>・総レビュー時間を変更せず、1回当たりの時間を短縮し、レビュー回数を増やすことで、レビュー工数と時間が十分に確保できない点を改善。</li> <li>・重大欠陥を優先して検出するために、重点項目を事前に決めることで、効率的なレビューの実施。</li> <li>・レビュー後の振り返りの中で、欠陥情報の共有し、レビューアのスキル向上を図り、属人的なレビューからの改善。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重点項目の決定方法や種類に関してはプロジェクトに一任しており、我々の目的とは異なる。</li> </ul>	1	1	3	3	1	2	11
[4]	ビジネスリスクに直結するレビューポイント導出方法の提案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジネスの責任者であるスポンサーの視点に着眼し、ビジネスリスクの低減をレビューの最重要項目とし、ビジネスにとって投資効果の高いレビューを効率的に実施するための手法の提案。</li> <li>・リスク欠陥ソニーによる可視化と適用プロセスの検討。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プロジェクト有識者の知識が必要となり、本プロジェクトの第三者によるチェックとの目的とは異なる。</li> </ul>	1	1	2	3	1	2	10
[5]	レビューポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「問診票」と呼ぶ質問票を使った、レビューアから成果物作成者への問診を通じて、レビューポイントに沿って成果物をレビューすることで、より効果的に重大欠陥を発見できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作成者への直接の問診が必要となる為、第三者が間接的に重大欠陥を予測して抽出する我々の目的とは異なる。</li> </ul>	1	1	1	3	2	2	10

付録 1. 先行研究の比較結果

No	手法名	手法の概要	重大欠陥の種類の利用可能性	評価						
				準備 3: 容易 2: 2 1: 困難	特別な知識 やスキル 3: 不要 2: 2 1: 必要	予測できる 重大欠陥の 信頼性 3: 高 2: 中 1: 低	プロジェクトの 特性を 反映できる か 3: 可能 2: 2 1: 不可能	実施 3: 容易 2: 2 1: 困難	結果分析 3: 容易 2: 2 1: 困難	総合 評価
[6]	3分割レビュー (TRP観点表)	各工程の1/3時点、2/3時点、完了時点でレビューを実施する。時点ごとに定義したTRP観点表を用いてレビューを行うことで、手戻り工数削減や開発計画の遵守を実現する手法。 1/3時点 大枠レビュー 2/3時点 詳細レビュー 完了時点 総合レビュー	観点を示しているが、重大欠陥の種類を端的に示しているものではない。観点を示しているものではない。重大欠陥種類の予測には直接活用ができない。	観点表は用意されている。1/3時点毎にレビューを実施する準備が必要。 2	観点表を使うだけならスキルは不要。 3	観点を重大欠陥種類に置き換える必要がある。 1	観点表を元にプロジェクトの特性を考慮すれば、反映は可能。 2	すでに観点表があるので、実施は比較的容易。 3	具体的な重大欠陥種類に落とし込めれば、結果分析は可能と思われる。 2	13
[7]	SBR法 (ステルスベースドレビュー手法)	プロジェクトメンバの各人が暗黙的に持ち、ドキュメントには記載されていない状況、知識、経験に関するステルス情報を考慮しながら欠陥検出を行う手法。 ステルス情報の所有者をユーザー・プロジェクト・作成者という視点で分け、各所有者それぞれの状況、知識、経験を書き出すフレームワークを用いる。	ステルス情報は暗黙的な情報、知識、経験を欠陥検出の手がかりとするもので、重大欠陥の種類を端的に示しているものではない。重大欠陥種類の予測には直接活用ができない。	フレームワークへの入力が必要。 2	上手くステルス情報を引き出す質問をするスキルが必要。 2	ステルス情報には重大欠陥であるかどうかの区別はない。 1	プロジェクト特性ごとに、ステルス潜伏箇所がリスト化されている。 3	実施容易度は、プロジェクト内の人間関係により異なる。 2	該当のステルス情報から、欠陥の分析は可能と思われる。 2	12
[8]	間接的メトリクスを用いて欠陥予測を行うレビュー方法	レビュー実施前にプロジェクトおよびその成果物の状態を間接的に表すメトリクスとして「プロジェクトメトリクス(コミュニケーション・体制・作業環境などに関するもの)」、「プロダクトメトリクス(設計書のファイル属性情報、図表の数、特定キーワードの出現数など)」を利用。	レビューアのメトリクスが整理されている。それぞれのメトリクスが必ずしも予測される重大欠陥の種類と対応しているわけではないため利用するには再整理が必要。成果物のメトリクスを第三者が評価するのは困難。 1	それぞれのメトリクスと対応する予測される重大欠陥の種類が再整理が必要。 3	メトリクスを一覧するなら特に必要な知識やスキルは不要。 1	メトリクスを一覧には重大欠陥であるかどうかの区別はない。 1	プロジェクトメトリクスを利用している。 3	特に第三者にとっては成果物内の特徴を見極めるのに現地確認が必要になるなどある程度の時間と手間が必要。 2	具体的な重大欠陥種類に落とし込めれば結果分析は難しくはない。 2	13
[9]	HDR法(仮説駆動型レビュー手法)	時間制約がある中でも集中的に重大欠陥を検出できるトップレビューアのレビュー時の思考メカニズムに着目して、プロダクト因子やプロジェクト因子などの品質要求・品質特性やレビュー対象物そのものから欠陥の兆候を掴み、その兆候を基に仮説を立てて、狙いを定めて欠陥を検出する手法。初心者や未経験者でも実践できるように体系化した。	効率よい重大欠陥検出に着目しており仮説パターン例は示されている。ただしあくまでも例であり、対象プロジェクトやチームの特性を反映させるには独自の仮説を追加する必要があり、その難易度が高い。また、成果物内の「兆候」は第三者が評価するには現実的でない。 2	仮説パターン例を利用するなら容易。ただし、対象プロジェクト独自の仮説を追加するならその準備が必要。 2	・品質要求 ・品質特性 ・欠陥知識 例を活用するならスキル不足はカバーされる。 2	仮説パターン例には重大欠陥であるかどうかの区別はない。 1	対象プロジェクトやチーム独自の仮説を追加すれば可能。ただし、トップレビューアがいなければ難易度が高い。 2	特に第三者にとっては成果物内の特徴を見極めるのにある程度の時間と習熟が必要。 2	具体的な重大欠陥種類に落とし込めれば結果分析は難しくはない。 2	11
[10]	DPDT法	上級レビューアは経験で得た欠陥情報をパターン化して蓄積しており、欠陥パターンとレビュー対象を照合して欠陥混入箇所と欠陥内容を推測している。この欠陥パターンと欠陥検出テクニックを紐づけた手法。	効率よい重大欠陥検出に着目しており欠陥パターン例は示されている。ただしあくまでも例であり、対象プロジェクトやチームの特性を反映させるには独自の欠陥パターンを追加する必要があり、その難易度が高い。また、成果物内の「兆候」は第三者が評価するには現実的でない。 2	欠陥パターン例を利用するなら容易。ただし、対象プロジェクト独自の欠陥パターンを追加するならその準備が必要。 2	・品質要求 ・品質特性 ・欠陥知識 例を活用するならスキル不足はカバーされる。 2	欠陥パターン例には重大欠陥であるかどうかの区別はない。 1	対象プロジェクトやチーム独自の仮説を追加すれば可能。ただし、上級レビューアがいなければ難易度が高い。 2	特に第三者にとっては成果物内の特徴を見極めるのにある程度の時間と習熟が必要。 2	具体的な重大欠陥種類に落とし込めれば結果分析は難しくはない。 2	11

付録2. 研究員の実験データ詳細

(1) 事例1

- ①対象データのプロフィール
  - ・中～大規模新規開発案件. 既存他社システムの横展開.
  - ・既存他社システムをベースにして, 新たな個社要件を盛り込んで開発するもの
- ②実験したデータの諸元
  - ・4設計書, レビュー指摘件数46件
  - ・外部設計段階, 内部レビュー・顧客レビューいずれも含む
- ③検証結果
  - ・内部レビュー指摘はあまりなし. 既存他社向けシステム成果物の焼き直しだからか, 顧客向けの体裁指摘が殆ど.
  - ・成果物作成者は比較的若手かつ本案件へのアサインは日が浅く, 前提条件の着信と, 要件定義成果物の読み込みが浅かったように見受けられる.
  - ・流出バグは, 前提条件として考慮しておくべき元データのバリエーションが考慮できておらずABENDしたもの. レビューイが有識者の場合 (B機能) は予め指摘できていたが, それでも漏れた. 有識者でない場合 (C機能, D機能) は指摘が出せていないため全て後続工程に流出.
- ④その他の気づき
  - ・実験を行った第三者は全社品質保証組織におり, 現場部門からはやや距離が離れているため, 一部プロフィール情報が充分掴めていない
  - ・大規模プロジェクトのためレビュー対象が多く, ほんの一部分しか確認できていないため, Input成果物や成果物間の整合性は評価できず.

突合表: 重大欠陥種類予測とレビューでの指摘状況, 流出欠陥の検出状況一覧

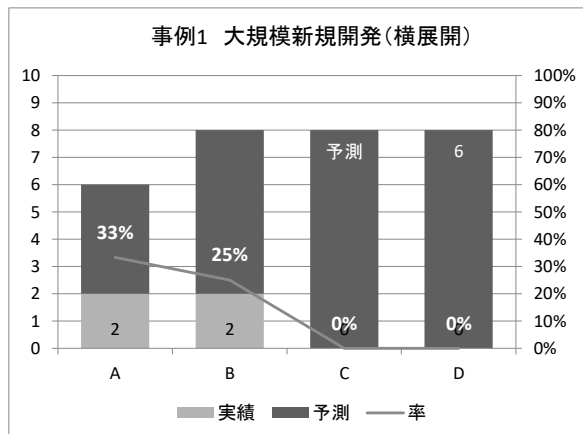
欠陥の傾向	重大欠陥種類	レビュー指摘予実											
		A			B			C			D		
		予測	実績	流出	予測	実績	流出	予測	実績	流出	予測	実績	流出
欠陥 (対応されず)	C-01	○	○					○			○		
	C-02				○								
	C-03												
欠陥 (考慮されず)	C-04	○	○		○			○			○		○
	C-05												
	C-06				○			○			○		
	C-07												
	C-08												
	C-09	○						○			○		
矛盾	C-10	○	?		○	?		○	?		○	?	
	C-11	○	?		○	?		○	?		○	?	
未対応	C-12	○			○			○			○		
	C-13				○			○			○		
読解困難	C-14												
	C-15				○								
重大欠陥種類レビュー検出率		6	2	0	8	2	2	8	0	1	8	0	1
レビュー工数密度		33%			25%			0%			0%		
不具合検出率		11.70			1.53			0.00			0.00		
レビュー対象成果物ページ数(頁)		25			95			6			10		
レビュー工数(人時)		5.5			3.5			0.16			0.34		
レビュー指摘数(件)		29			5			0			0		
顧客レビュー対象成果物ページ数(頁)		120											
顧客レビュー工数(人時)		10											
顧客レビュー指摘数(件)		12											

担当者A                      担当者B                      担当者A                      担当者C

?: 単発の成果物のため複数資料間の整合性確認が行われたかどうか分からないもの

可視化表, 可視化グラフ

レビュー	予測	実績	率
A	6	2	33%
B	8	2	25%
C	8	0	0%
D	8	0	0%
計	30	4	13%



(2)事例2

①対象データのプロフィール

- ・大規模派生開発案件
- ・上流工程からの品質担保が不十分で、結合テスト段階で不具合続出したもの

②実験したデータの諸元

- ・8機能、レビュー指摘件数43件
- ・外部設計段階、内部レビュー

③検証結果

- ・誤字脱字など軽微指摘は事前に確認されているので、ほぼ重大な指摘のみ。その為、指摘件数は少ない。
- ・この後工程で数百件の障害が発生した、レビュー指摘漏れも多く、良いレビューとは言えない。
- ・F機能は欠陥が多かったため、検出率は高いが、後工程への流出も多く発生した。

④その他の気づき

- ・実験を行った第三者は品質保証部門におり、対象レビューの一部にも参加している為、完全な第三者ではない。
- ・成果物が、Wordの場合 (A,C,F) ページ数が多いが、ExcelやPowerpointの場合 (B,D,E,G,H) ページ数が少ない。そのためレビュー工数密度に差が出る。また成果物のページ数が少ないほど流出も多い傾向がある。

突合表：重大欠陥種類予測とレビューでの指摘状況、流出欠陥の検出状況一覧

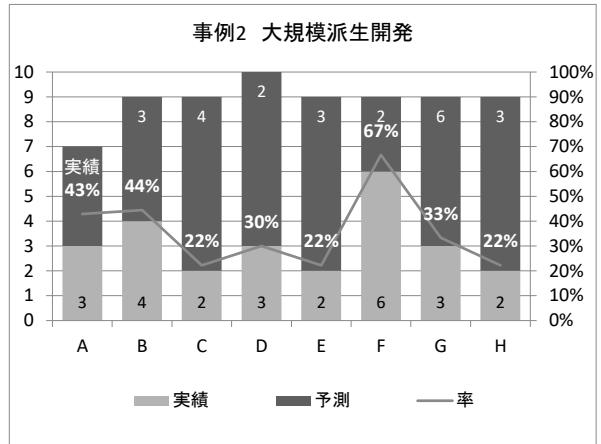
欠陥の傾向	重大欠陥種類	レビュー指摘予実			A			B			C			D			
		予測	実績	流出	予測	実績	流出	予測	実績	流出	予測	実績	流出	予測	実績	流出	
欠陥 (対応されず)	C-01																
	C-02	○	○		○	○		○	○		○	○		○	○		
	C-03																
欠陥 (考慮されず)	C-04													○	○	○	
	C-05																
	C-06	○			○			○			○			○			
	C-07													○		○	
	C-08							○	○		○	○		○			
矛盾	C-09																
	C-10	○	○		○			○			○			○			
未対応	C-11	○			○	○		○	○		○			○			
	C-12																
読解困難	C-13	○	○		○	○		○	○		○	○		○	○	○	
	C-14	○			○			○			○			○			
	C-15	○			○			○			○			○			
重大欠陥種類レビュー検出率		7	3	0	9	4	1	9	2	0	10	3	3				
情報	人	43%			44%			22%			30%						
	時間	5			9			8			9						
	ページ	2.5			3.5			1.5			3.5						
	不具合数	26			8			41			8						
レビュー工数密度 (人・時間/ページ)		3			5			7			6						
不具合検出率 (不具合/ページ)		0.48			3.94			0.29			3.94						
		12%			63%			17%			75%						

突合表続き (2/2)

欠陥の傾向	重大欠陥種類	レビュー指摘予実			E			F			G			H			
		予測	実績	流出	予測	実績	流出	予測	実績	流出	予測	実績	流出	予測	実績	流出	
欠陥 (対応されず)	C-01																
	C-02	○			○			○			○			○	○		
	C-03																
欠陥 (考慮されず)	C-04													○	○	○	
	C-05																
	C-06	○			○			○			○			○			
	C-07	○	○		○	○		○	○		○	○		○			
	C-08	○	○		○	○		○	○		○	○		○			
矛盾	C-09																
	C-10	○			○			○			○			○			
未対応	C-11	○			○	○		○	○		○			○			
	C-12																
読解困難	C-13	○			○	○		○	○		○	○		○			
	C-14	○			○			○			○			○			
	C-15	○			○			○			○			○			
重大欠陥種類レビュー検出率		9	2	1	9	6	4	9	3	3	9	2	1				
情報	人	22%			67%			33%			22%						
	時間	9			9			6			7						
	ページ	1.5			12			1.5			1.5						
	不具合数	3			66			3			4						
レビュー工数密度 (人・時間/ページ)		2			11			6			3						
不具合検出率 (不具合/ページ)		4.50			1.64			3.00			2.63						
		67%			17%			200%			75%						

可視化表, 可視化グラフ

レビュー	予測	実績	率
A	7	3	43%
B	9	4	44%
C	9	2	22%
D	10	3	30%
E	9	2	22%
F	9	6	67%
G	9	3	33%
H	9	2	22%
計	71	25	35%



(3) 事例3

①対象データのプロフィール

- ・大規模派生開発案件
- ・上流工程からの品質担保ができ、社内では成功プロジェクトとの判定となっている
- ・2機能および、環境構築、移行作業を含めたプロジェクト

②実験したデータの諸元

- ・誤字脱字、機能不備、検討漏れなどの指摘が実施されていた
- ・レビューについても、予定通りのメンバが出席
- ・1時間～2時間のレビューで複数ドキュメントを対象に実施

③検証結果

- ・機能仕様書起因の不良が顧客テストで数件発生している。機能の複雑度などの問題もあるが、検出率が低い機能がより不良が多い傾向があると考え、データ量が少ないためさらなる検証が必要。
- ・今回は、総合テストの評価単位での分析を実施。ある程度大きい単位で評価を実施することで傾向が見えると想定される。小さい単位の場合、検出率が低くなりすぎ、評価ができないことが想定される。

④その他の気づき

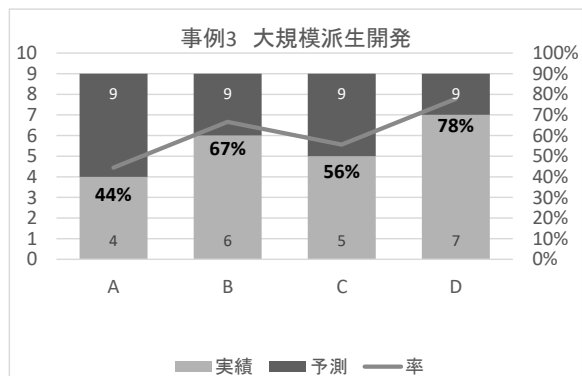
- ・プロジェクト単位で、指摘内容は大きく変動しないと思われるので、チーム単位で評価することがよいと思われる。

突合表：重大欠陥種類予測とレビューでの指摘状況、流出欠陥の検出状況一覧

欠陥の傾向	重大欠陥種類	A			B			C			D		
		予測	実績	流出	予測	実績	流出	予測	実績	流出	予測	実績	流出
欠陥 (対応されず)	C-01												
	C-02	○			○	○	○	○			○	○	
	C-03												
欠陥 (考慮されず)	C-04	○			○	○		○	○	○	○	○	
	C-05												
	C-06	○	○		○	○		○		○	○	○	
	C-07												
	C-08												
	C-09												
矛盾	C-10	○		○	○			○			○	○	
	C-11	○		○	○			○	○		○		
未対応	C-12	○			○			○			○	○	
	C-13	○	○	○	○	○		○	○		○	○	
読解困難	C-14	○	○		○	○		○	○		○	○	
	C-15	○	○		○	○		○	○		○	○	
重大欠陥種類レビュー検出率		9	4	3	9	6	1	9	5	2	9	7	0
		44%			67%			56%			78%		

可視化表、可視化グラフ

レビュー	予測	実績	率
A	9	4	44%
B	9	6	67%
C	9	5	56%
D	9	7	78%
計	36	22	61%



(4) 事例4

①対象データのプロフィール

- A: 保守
- B~C: 小規模新規開発案件 (横展開) . 主に帳票レイアウトの変更対応
- D~F: 小規模新規開発案件 (横展開) . 主に帳票レイアウトの変更対応
- G~S: 小規模新規開発案件.

②実験したデータの諸元

- A: 新人が改修. 1機能, レビュー指摘件数7件, 設計および出荷レビュー.
- B~C: 2機能, レビュー指摘件数1件. Cは指摘なし. 外部設計.
- D~F: 3機能, レビュー指摘件数10件. 文字が表示領域より長い場合の考慮漏れの指摘が多い. 同時刻にまとめてレビューしている. 成果物は丁寧に作成されており, 特段悪い特徴はない. 外部設計
- G~S: 13機能, レビュー指摘件数75件. L, Mは指摘なし. 外部設計. レビュー時間は記録なし.

③検証結果

- A: 新人が設計, 改修
- B~C: Cは指摘なし.
- D~F: 文字が表示領域より長い場合の考慮漏れの指摘が多い. 同時刻にまとめてレビューしている. 成果物は丁寧に作成されており, 特段悪い特徴はない.
- G~S: L, Mは指摘なし. Jで後工程で仕様不足の指摘あり.

④その他の気づき

帳票レイアウト修正程度の軽微な改修の場合は指摘の数自体が少なく, 成果物の品質も悪くはないため, 予測重大欠陥種類レビュー検出率は低くなる傾向. D2BOCs法の手順では最初に品質要求, 機能の重要度などリスク判定を行い高リスクである範囲を重点探索範囲として決めているようなので, 上記のようなリスクの低い案件には合わず効果が出にくいのかもしれない. 予測重大欠陥の導き出し方 (テラリング?) によって, 予測重大欠陥種類レビュー検出率に影響あり.

統合表: 重大欠陥種類予測とレビューでの指摘状況, 流出欠陥の検出状況一覧 (1/5)

欠陥の傾向		レビュー指摘予実 重大欠陥種類	A			B			C			D		
			予測	実績	流出	予測	実績	流出	予測	実績	流出	予測	実績	流出
欠陥 (対応されず)	C-01	前提条件となる記載がない	○			○			○					
	C-02	未経験箇所の条件が漏れる	○	○								○		
	C-03	組織内の作成規約に違反している・必須で対応すべき内容が抜ける	○											
欠陥 (考慮されず)	C-04	例外ケースの考慮が漏れる	○			○			○					
	C-05	セキュリティ面の考慮が漏れる												
	C-06	類似した機能において, 機能独自の仕様が記載されていない	○									○	○	
	C-07	非連携部分の情報が欠落する												
	C-08	影響範囲の対応が抜ける												
矛盾	C-09	性能に関する考慮がされない				○			○					
	C-10	InputとOutputの内容に齟齬がある	○			○			○			○	○	
未対応	C-11	機能に関する影響範囲間の辻褄が合っていない	○			○			○			○		
	C-12	課題修正箇所に関連する箇所の変更対応がされない	○	○		○	○		○					
読解困難	C-13	類似機能の処理が流用元のままとされている	○									○		
	C-14	用語の使い方を間違えている・意味を取り違えている	○	○								○		
	C-15	誤変換の誘発										○		
指摘率			10	3	0	6	1	0	6	0	0	7	2	0
① レビュー時間 (h)			30%			17%			0%			29%		
② 参加人数 (人)			1			0.5			0.5			0.42		
③ 設計書ページ数			4			3			3			3		
④ レビュー工数			30			12			23			10		
⑤ 指摘数			4			1.5			1.5			1.25		
レビュー工数密度 (④/③)			7			1			0			7		
レビュー指摘密度 (⑤/③)			0.13			0.13			0.07			0.13		
レビュー指摘密度 (⑤/④)			0.23			0.08			0.00			0.70		

実合表続き (2/5)

欠陥の傾向	レビュー指摘予 実	E			F			G			H						
		予測	実績	流出	予測	実績	流出	予測	実績	流出	予測	実績	流出				
欠陥 (対応されず)	C-01	前提条件となる記載がない	○			○			○			○	○				
	C-02	未経験箇所の条件が漏れる							○	○		○	○				
	C-03	組織内の作成規約に違反している・必須で対応すべき内容が抜ける															
欠陥 (考慮されず)	C-04	例外ケースの考慮が漏れる							○			○					
	C-05	セキュリティ面の考慮が漏れる															
	C-06	類似した機能において、機能独自の仕様が記載されていない	○	○		○	○		○			○					
	C-07	非連携部分の情報が欠落する															
	C-08	影響範囲の対応が抜ける															
矛盾	C-09	性能に関する考慮がされない															
	C-10	InputとOutputの内容に齟齬がある	○	○		○	○		○	○		○	○				
	C-11	機能に関する影響範囲間の辻褄が合っていない	○			○			○			○					
未対応	C-12	課題修正箇所に関連する箇所の変更対応がされない															
	C-13	類似機能の処理が流用元のままとなっている	○			○						○					
読解困難	C-14	用語の使い方を間違えている・意味を取り違えている	○			○			○			○					
	C-15	誤実装の誘発	○			○			○	○		○	○				
指摘率			7	2	0	7	2	0	9	3	0	9	4	0			
			29%			29%			33%			44%					
		①	レビュー時間 (h)			0.42			0.42			0			0		
		②	参加人数 (人)			3			3			2			2		
		③	設計書ページ数			5			2			4			20		
		④	レビュー工数			1.25			1.25			0			0		
		⑤	指摘数			2			1			5			5		
			レビュー工数密度 (④/③)			0.25			0.63			0.00			0.00		
			レビュー指摘密度 (⑤/③)			0.40			0.50			1.25			0.25		

実合表続き (3/5)

欠陥の傾向	レビュー指摘予 実	I			J			K			L			
		予測	実績	流出	予測	実績	流出	予測	実績	流出	予測	実績	流出	
欠陥 (対応されず)	C-01	前提条件となる記載がない	○			○			○			○		
	C-02	未経験箇所の条件が漏れる	○	○		○	○		○	○		○		
	C-03	組織内の作成規約に違反している・必須で対応すべき内容が抜ける												
欠陥 (考慮されず)	C-04	例外ケースの考慮が漏れる	○	○		○			○			○		
	C-05	セキュリティ面の考慮が漏れる												
	C-06	類似した機能において、機能独自の仕様が記載されていない	○			○			○			○		
	C-07	非連携部分の情報が欠落する												
	C-08	影響範囲の対応が抜ける												
矛盾	C-09	性能に関する考慮がされない												
	C-10	InputとOutputの内容に齟齬がある	○	○		○	○		○	○		○		
	C-11	機能に関する影響範囲間の辻褄が合っていない	○			○			○			○		
未対応	C-12	課題修正箇所に関連する箇所の変更対応がされない												
	C-13	類似機能の処理が流用元のままとなっている	○			○			○			○		
読解困難	C-14	用語の使い方を間違えている・意味を取り違えている	○			○			○			○		
	C-15	誤実装の誘発	○	○		○	○		○	○		○	○	
指摘率			9	4	0	9	3	1	9	3	0	9	0	0
			44%			33%			33%			0%		
		①	レビュー時間 (h)			0			0			0		
		②	参加人数 (人)			2			2			2		
		③	設計書ページ数			19			14			20		
		④	レビュー工数			0			0			0		
		⑤	指摘数			26			25			1		
			レビュー工数密度 (④/③)			0.00			0.00			0.00		
			レビュー指摘密度 (⑤/③)			1.37			1.79			0.05		



突合表続き (4/5)

欠陥の傾向		レビュー指摘予 実			M			N			O			P			
					予測	実績	流出	予測	実績	流出	予測	実績	流出	予測	実績	流出	
欠落 (対応されず)	C-01	前提条件となる記載がない	○			○			○			○			○		
	C-02	未経験箇所の条件が漏れる	○			○	○		○			○	○				
	C-03	組織内の作成規約に違反している・必須で対応すべき内容が抜ける															
欠落 (考慮されず)	C-04	例外ケースの考慮が漏れる	○			○			○			○			○		
	C-05	セキュリティ面の考慮が漏れる															
	C-06	類似した機能において、機能独自の仕様が記載されていない	○			○			○			○			○		
	C-07	非連携部分の情報が欠落する															
	C-08	影響範囲の対応が抜ける															
矛盾	C-09	性能に関する考慮がされない															
	C-10	InputとOutputの内容に齟齬がある	○			○	○		○			○			○		
未対応	C-11	機能に関する影響範囲間の辻褄が合っていない	○			○			○			○			○		
	C-12	課題修正箇所に関連する箇所の変更対応がされない															
読解困難	C-13	類似機能の処理が流用元のままとなっている	○			○			○			○			○		
	C-14	用語の使い方を間違えている・意味を取り違えている	○			○			○			○			○		
	C-15	誤実装の誘発	○			○	○		○	○		○	○		○	○	
指摘率			9	0	0	9	3	0	9	1	0	9	2	0			
			0%			33%			11%			22%					
① レビュー時間 (h)			0			0			0			0					
② 参加人数 (人)			2			2			2			2					
③ 設計書ページ数			13			21			5			19					
④ レビュー工数			0			0			0			0					
⑤ 指摘数			0			4			1			4					
レビュー工数密度 (④/③)			0.00			0.00			0.00			0.00					
レビュー指摘密度 (⑤/③)			0.00			0.19			0.20			0.21					

突合表続き (5/5)

欠陥の傾向		レビュー指摘予 実			Q			R			S			
					予測	実績	流出	予測	実績	流出	予測	実績	流出	
欠落 (対応されず)	C-01	前提条件となる記載がない	○			○			○			○		
	C-02	未経験箇所の条件が漏れる	○	○		○	○		○	○		○	○	
	C-03	組織内の作成規約に違反している・必須で対応すべき内容が抜ける												
欠落 (考慮されず)	C-04	例外ケースの考慮が漏れる	○			○			○			○		
	C-05	セキュリティ面の考慮が漏れる												
	C-06	類似した機能において、機能独自の仕様が記載されていない	○			○			○			○		
	C-07	非連携部分の情報が欠落する												
	C-08	影響範囲の対応が抜ける												
矛盾	C-09	性能に関する考慮がされない												
	C-10	InputとOutputの内容に齟齬がある	○			○			○			○		
未対応	C-11	機能に関する影響範囲間の辻褄が合っていない	○			○			○			○		
	C-12	課題修正箇所に関連する箇所の変更対応がされない												
読解困難	C-13	類似機能の処理が流用元のままとなっている	○			○			○			○		
	C-14	用語の使い方を間違えている・意味を取り違えている	○			○			○			○		
	C-15	誤実装の誘発	○	○		○	○		○	○		○	○	
指摘率			9	2	0	9	2	0	9	2	0	9	2	0
			22%			22%			22%					
① レビュー時間 (h)			0			0			0					
② 参加人数 (人)			2			2			2					
③ 設計書ページ数			12			8			14					
④ レビュー工数			0			0			0					
⑤ 指摘数			1			1			2					
レビュー工数密度 (④/③)			0.00			0.00			0.00					
レビュー指摘密度 (⑤/③)			0.08			0.13			0.14					

可視化表、可視化グラフ

レビュー	予測	実績	率
A	10	3	30%
B	6	1	17%
C	6	0	0%
D	7	2	29%
E	7	2	29%
F	7	2	29%
G	9	3	33%
H	9	4	44%
I	9	4	44%
J	9	3	33%
K	9	3	33%
L	9	0	0%
M	9	0	0%
N	9	3	33%
O	9	1	11%
P	9	2	22%
Q	9	2	22%
R	9	2	22%
S	9	2	22%
計	160	39	24%

